

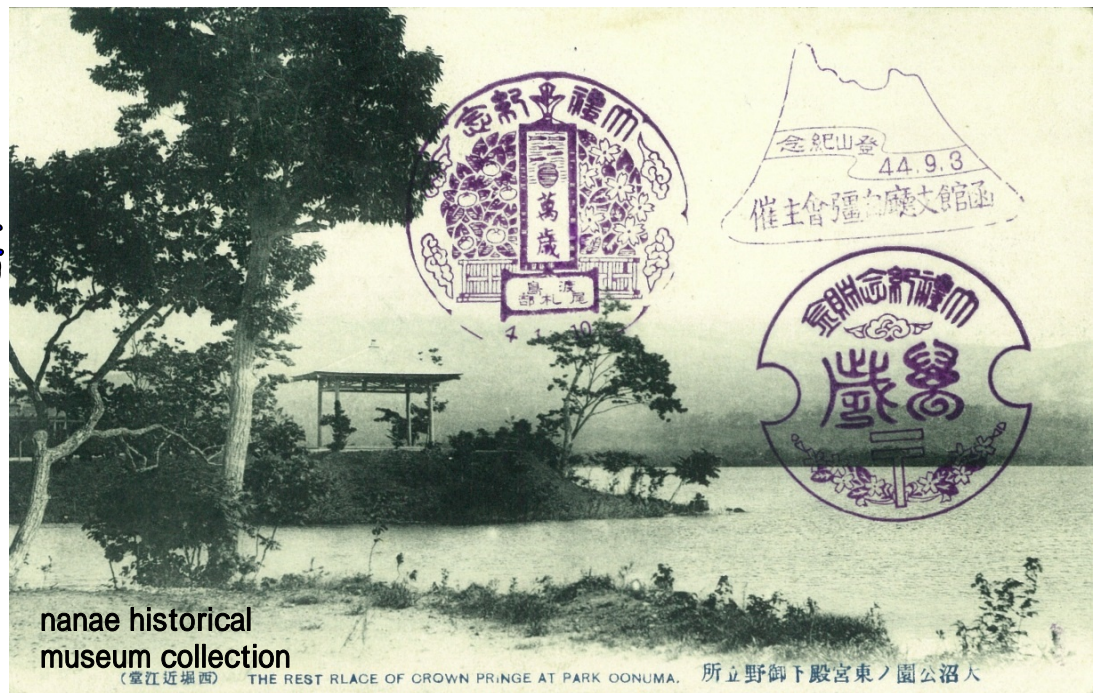
Richart ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第141号

ななえ古写真物語 VOL.141

御展望の地

大正天皇の行啓
明治44年頃
大沼地区



明治44年7月、公園としての整備が進みつつある大沼に、現在とは趣きが異なる木造の駅舎「大沼公園停車場」が新築された。開設時は春から秋にかけての限定的な営業だったようだが、駅の開業は、大沼への来訪者が増加する予感につつまれ、ますますの発展への期待が高まっただろう。

そして、その翌月となる8月21日に、この駅舎に御下車なされたのが、東宮殿下こと後の大正天皇である。気運が高まりつつある大沼の人々にとっては、まさに名誉ある出来事だったに違いない。殿下は、函館を出発し、桔梗で園田牧場を行啓したのち、御召列車にて大沼へ到着された。下車後、公園内を徒歩でご遊覧されたという。当時、大沼には戦勝記念として、陸軍大将の大山巖と海軍大将の東郷平八郎の銅像が設置されていたので、もしかしたらご覧になったのかもしれない。遊覧後には、セバット（大沼と小沼が繋がっている場所）付近に設営された御野立所で、公園の大景を展望なされた。この時の御野立所が上の写真である。

御休息の際には、森村の村岡格と弁開胤次郎父子が、丸木舟で漕ぎ寄せて、殿下へアイヌの祭式を行って奉迎する演出がなされた。

明治44年8月24日に発行した函館毎日新聞に、その時の様子を「（中略）茅部郡落部村アイヌ辨開胤次郎父子は奉迎の意を表せんと森村アイヌ研究所ピリカ會の會長村岡格氏付添い父子共アイヌの盛装を凝らして打乗り 辨開はカムイウエヴエクニイナヲ（御慶事記念の幣）を奉持して...（中略）...御姿を拝するや否や島影より船を漕ぎ出したるも風強く波高くして丸木舟の操縦意の如きならず...（中略）」と記している。結果的にこの奉迎は殿下に無事届き、御菓子下賜の恩命にあずかったという。

この時、弁開父子とともにイナヲを奉持していた村岡は、行啓の記念にと、大沼の無名の島に自身が持っていたイナヲを安置し、殿下の玉体の安寧を祈ったという。その島は「稲穂島」と名付けられ、現在も残っているのだが、イナヲがその後どうなったかはわからない。もしかしたら、この逸話すら伝えれていないのかもしれない。

数日ほど前、かのご展望の地を訪れた。御野立所の跡には、御展望の地碑が建立されていて、木々が生い茂り、往時の活況が幻のようだった。そして、その前を自転車に乗った外国人が走る姿に、時代の移り変わりを感じた。

7日

夜の博物館前期講座第3夜を行いました。テーマは「自然科学が見る古文書の駒ヶ岳」。石川県立大学客員教授の雁沢好博氏をお招きし、古文書や絵図に描かれている駒ヶ岳を人物象や時代背景を交えて解説して頂きました。中でも興味深かったのは、駒ヶ岳がスケッチとして残された歴史上最初の絵でした。江戸中期の地理学者古川古松軒が描いた、剣が峰から噴煙が上がる絵で、『東遊雑記』に記されています。他にも菅江真澄や林子平など、古文書や絵で変遷を知る時間は、新たな大沼のあり方も考える時間となりました。



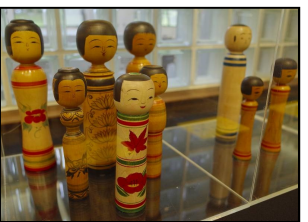
24日

この日のジュニア探検クラブは「川で遊ぼう!」と題して北斗市の茂辺地川へ。天気は良好だったのですが、前日までの雨の影響で、川が増水して流れも速くなっており、危険な状態。せっかく来たのですが、川べりで足をつけるくらいしかできませんでした。それでも、川原石を積み上げていくロック・バラシングに挑戦したり、綺麗な石をさがしたり、石器の素材となる石を見つけて、草を切ったりと、各々楽しめたようでした。



こけしを展示をしています

ロビーにミニ展示コーナーを設け、こけしを展示しています。伝統こけしは、昭和30年頃に主に東北地方の温泉地のお土産ものとして、ブームを博しますが、その後衰退し、現代はデザイン性豊かな創作こけしも加え、海外でも展示会が開かれるほど、注目をされています。工人と呼ばれる木地職人の独特な表情や銅部分の描彩、構造は、産地によって異なり、11系統に分けることができます。展示している収蔵資料には、古さ故の味わい深いこけしが多くあります。是非ご覧下さい。



10月の予定

1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月 体育の日
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日 ピチャリ142号発行予定
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土 ジュニア探検クラブ・町民文化祭
27	日 第60回七飯町民文化祭・第2会場
28	月
29	火
30	水
31	木

10月の休館日はありません

ムクロジ

本州の公園や寺社で見かけるムクロジの実は、艶のある紺色の実。学習室に展示しています。



編集後記 ~tawagoto~

先日、七飯町において開催された「第61回 全国リンゴ研究大会」で、日本の西洋リンゴ栽培の歴史について講話の機会をいただいた。全国各地から集まった栽培家の皆さんの前で話すのは、非常に緊張を伴うもので、額から訳の分からない汗がにじむ。一番気になったのは、町外の方が、七飯町の果樹栽培史に興味を持つのか?という点だったが、今だに担当者から感想が伝わってこないのは、良い反応ではなかったのだと自戒している。(やまだひさし)

Pichari

~ピチャリ~

第141号

令和元年9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp